

平成 28 年第 12 回 沼津市教育委員会定例会会議録

1 日 時 平成 28 年 12 月 20 日（火）午後 2 時 30 分～午後 3 時 40 分

2 場 所 沼津市水道部庁舎 3 階 会議室

3 日 程

(1) 会議録署名人の指名（三好委員 土屋委員）

(2) 教育長の報告

(3) 議 案

なし

(4) 協 議

なし

(5) 報 告

1) 11 月市議会定例会一般質問等について

(6) そ の 他

ビブリオバトル小中学生大会 IN 沼津の実施について報告

「曲がり角のその先に ～翻訳家 村岡花子の生涯～」講演会開催の報告

4 出席者等

教育長 服部裕美子、教育長職務代理者 三好勝晴、委員 土屋葉子、委員 重光純、
教育次長 井原正利、教育指導監兼学校教育課長 大川淳、教育企画課長 真野正実、
学校管理課長 山本貴史、文化振興課長兼戸田造船郷土資料博物館長 中島康司、
教職員研修センター所長 望月まゆみ、生涯学習課長兼勤労青少年ホーム館長兼ゆめとびら舟山
所長兼少年自然の家所長 原恵子、青少年教育センター所長 小林孝子、図書館長 杉山一男、
図書館事務長 芹澤恵美子、市立沼津高等学校事務長 杉山善英、
スポーツ振興課長補佐 山岡慶博、調整担当学校管理課長補佐 金子昭人、
教育企画課長補佐 矢田陽子、教育企画課指導主事 本杉淳、教育企画課主任 和泉百映

5 会議内容

服部教育長が、午後 2 時 30 分開会を宣言する。

服部教育長より会議を公開とすることを委員に諮り、了承される。

傍聴人 1 名

(1) 会議録署名人の指名

服部教育長より会議録署名人に三好委員、土屋委員を指名する。

(2) 教育長報告

はじめに、私から報告をさせていただく。

報告の前に、少し話をさせていただく。

今週から、市内小中学校の子どもたちは、冬休みに入る。本日は、平成 28 年の最終となる第 12 回の教育委員会である。この 4 月に教育長に就任し、新教育委員会制度がスタートした。制度改正のねらいの中に、より迅速な情報提供や対応等、危機管理体制の充実、協議内容の充実と活性化が挙げられている。そのねらいに添うように、教育委員の皆様、学校現場の状況や各事業の内容を見えるようにし、必要なことを迅速に協議し、対応していきたいと考えている。定例会を含めた会議等の持ち方について、見直し、工夫していきたいと考えている。ぜひ随時、お気づきのこと、ご意見をお寄せいただきたいので、よろしくお願ひす

る。

それでは、私より、11月議会の報告と、活動報告をさせていただきます。

11月市議会、定例会について報告する。11月25日に開会した11月議会は、12月16日に閉会した。教育委員会関係の一般質問等の内容については、後ほど、教育次長より報告をさせていただきます。私からは、一言話をさせていただきます。

大沼市長就任後、初の沼津市議会ということで、市長の所信表明および市長の考えを問う質疑が多くあった。市長のおっしゃる「世界一元気な沼津市」は、未来をつくる子どもたち、教育にかかっていると私は考える。そして、すべての市民の生涯学習も大事であり、市長ご自身も、教育を大変大事に考えておられると聞いている。市長からは、今後教育について話し合う時間を随時設け、早いうちに学校視察も組み入れながら、現場の実態や課題についての認識を共有したい旨を伺っている。今後、しっかりと連携し、総合教育会議等を活かして、委員の皆様のお力をいただきながら、教育施策を充実させていきたいと考えているのでよろしく願います。

11月20日に閉会した市芸術祭の報告ならびに文化関係の報告をさせていただきます。9月29日より開会した市芸術祭が2カ月、19部門、様々なジャンルでの催しを終え、11月20日に表彰式と閉会式が行われた。市民文化センターやプラサヴェルデを中心に作品展や舞台発表のほか、「ぬまづ文芸」での文学作品の発表、茶道、寄席など、今年も大変充実した内容であった。芸術文化は、人を豊かにし、このような発表の場が、より人を生き生きさせていると感じた。生涯教育を支え発展させていく意義ある芸術祭であると感じた。

11月27日には、沼津ユネスコ協会主催の絵画展、表彰式があった。「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの」をテーマに、小中学生が、地域の宝を描いている。図書館4階に全作品が展示され、表彰式もそこで行った。選んだ場所やことがらへの子どもの思いが伝わってくる、その子らしい思いがあふれる「絵」に、感動した。このような郷土愛を育む教育・環境は、とても重要であると感じた。芸術祭をはじめ、様々な行事に参加し、多くの方が大事に育ててこられた芸術文化が、若い世代や子どもたちに受け継がれていくような環境を整えていくことが大事であると思った。

教育基本構想に描く沼津の自然・文化・産業を生涯学習に生かすための土台である感性を育むことを大切にしていきたいと、改めて思った。

11月から12月にかけて、数々の表彰式に出席し、市内の様々なジャンルで活躍する方々にお会いした。表彰は、本人の功績を称えることはもちろんであるが、その仲間やその後に続く方々にとっての目標、励みになり、その道の伝統を作っていると感じた。

続いて、スポーツ関係および沼津市子ども会育成連絡協議会関係の報告をさせていただきます。11月26日（土）には、静岡県市町駅伝大会沼津市チームの結団式、12月3日（土）が大会当日であった。沼津市チームは12位であり、大変見事な走りでもともとよく健闘したと思った。11月19日（土）はNPO法人沼津市体育協会によるスポーツ優秀選手賞の表彰式、12月4日（日）は沼津市体育協会創立70周年記念式典、功労賞表彰式などがあり出席した。NPO法人沼津市体育協会の方々の協力・主催により、スポーツ関係の事業が様々な形で展開されている。戦後まもない昭和21年頃から、青少年を育むための一環として創立した体育協会は、スポーツ振興に貢献されているということに、教育委員会として大変敬意を表したい。

11月26日（土）に、今沢中学校の運動場で、沼津市子ども会育成連絡協議会主催の球技大会が行われた。各小学校区での予選を勝ち抜いてきた子ども会のチームが、リーグ戦と決

勝トーナメントにより優勝を競った。今沢中学校のグラウンドで、富士山をバックにして、熱戦が繰り広げられた。子ども会活動、PTA活動が大変難しくなっているという声を聴いている。様々な改善を加えながら、継続されていることに意義を感じる。はじめのころに役員になられた方々は、「大変」と言われる。しかし、関わる中で、子どもたちの活躍や保護者の方々と話をすることで、意義を感じ良かったという声を聞かせていただいている。少しでも、皆さんの輪が広がり、無理なく楽しく活動できる様々な広がり、教育委員会としても支えて行くことが出来ると良いと感じた。お話ししたいことはまだあるので、議会報告の後に議会に関連して深めたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

それでは、事務局から、その他の12月の主な行事等について報告をさせていただく。

教育企画課長

私からは、12月の教育委員会関係の行事等について、報告をさせていただく。

12月行事等一覧をご覧いただきたい。

3日(日)には、第2回イングリッシュアドベンチャー事業がプラサヴェルデで開催され、教育長が参加している。詳細については、学校教育課から1月の定例会で報告させていただくが、簡単に概要だけ報告する。小学5・6年生、中学1・2年生の108名が参加した。夏に第1回を実施しているが、リピーターが4割であり、英語のみで一日過ごし、グループでクリスマスのお菓子作りや、世界の料理の昼食をバイキング形式で食べたり、英語で日本の文化や遊び等を紹介するなどしたと伺っている。

13日(火)には、沼津市立浮島中学校の元校長先生の勝又通雄氏に教育長室で、高齢者叙勲伝達式を行っている。

15日(木)には、市立沼津高等学校バトン部の生徒13名と顧問の先生が、第44回バトンタワーリング全国大会に出場した結果報告のため、市長表敬訪問をしており、教育長も同席している。全国大会は、12月10日(土)に幕張メッセで開催され、銀賞を受賞したと伺っている。大変簡単であるが、以上。

服部教育長 これについて、何か、ご意見ご質問等いかがか。

服部教育長 特にないようなので、以上で教育長報告とさせていただく。

<報告>

1) 11月市議会定例会一般質問等について

教育次長 11月定例会は11月25日から12月16日まで開催された。大沼市長就任後初めての市議会となった。開会日に市長の所信表明演説があり、この中で基本方針の5番目として、防災と教育をあげ、「教育については、総合教育会議等の場を活用し、私と教育委員会で連携を図りながら、学校教育及び社会教育の充実に努める」と述べられた。

教育委員会関係の議案については、沼津市立少年自然の家条例の廃止、また、第一小学校、今沢中学校の給食設備設置工事を含む、平成28年度一般会計補正予算議案が提出されており、両議案とも可決された。

一般質問は、22人の議員から通告があり、教育委員会関係の質問は9人であ

った。

(教育次長 資料に基づき説明)

- 服部教育長 説明が終わったが、本件に対するご質問、ご意見等はいかがか。
- 三好委員 市長が変わられたばかりで、多くのことが大変であると思う。教育委員会に関して、学校教育、学校現場のことは、市長も現場に足を運ぶとおっしゃっている。我々からも、支援員が必要であるなど、なぜこのような状況になっているのか、現場を見ていただきたい。学校の環境整備については、市の予算に限りがあると思う。一度に全ての整備をすることは難しいと思うので、そこは事務局でよく考えて欲しい。市長にも、そこは良くご理解いただきたいと感じる。予算をつけていただかないと何も進まないの、現状を良く見ていただくなどの働きかけが、われわれからも必要であると感じた。
- 土屋委員 山下議員の質問の中に、沼津市の教育予算が、県内の市町の中で低い方であるとあった。私たちも感じていることを市長と良く話し合い、予算に組み込んでいただけるよう、頑張ってお話し合いたいと思った。市長は、「心の教育」ということを、所信表明時や山下議員の質問に対してお答えしていた。そのことについて、深く話し合えることが楽しみであると感じる。
- 服部教育長 環境施設の充実については、私たちもとても願っているところである。現状の予算の中で、出来る限りの整備をしていくが、市全体の予算のバランスはあるが、現状を見ていただき、切実な子どもたちの声や現場の状況をしっかりお伝えして行きたいと思っている。教育委員の皆様にも、一緒によろしくお願ひしたいと思う。
- 三好委員 高尾山古墳については、現在も、発掘中であるのか。
- 教育次長 発掘はしていない。
- 三好委員 古墳の概要はつかめたと思うが、今後保存をしていく中で、さらなる発掘をしていく予定はあるのか。保存していくということは、専門家により有効な過去の歴史から紐解き、多くのことがわかるのか。計画的に発掘できるような保存方法になっているのか、先送りにしているだけなのか、いかがか。
- 教育次長 古墳の発掘というのは、簡単に言うと、古墳を壊すということになる。古墳と言うのは、史跡であるため、そのままの形で残っていることが重要である。それが史跡である。史跡という形で古墳が残っているだけでは、古墳の内容が不明であり、価値が上がらない。古墳の発掘の場合は、長塚古墳においては、トレンチを掘り込み、下枠を掘り、部分的に発掘をしていき全体を把握するという方法をとった。高尾山古墳の場合は、道路を通す前に行っている第1期発掘はそのような方法で実施している。それに基づき、通常の形の調査報告書を作成している。古墳の発掘では、通常実施している方法であり、古墳の概要はつかめた。高尾山古墳の場合は重要な問題があり、後方部の墳丘が異様に高いことと、次代の認定が今ひとつわからなかった。主体部というお棺が入っていたと思われるところから出土した土器の年代と、墳丘版築と言われる土を固めたところに入っていた土器の年代がずれており、周溝から出土した土器とも年代がずれていた。結局高尾山古墳は、時代に幅がある出土物が多数あったため、それが何を意味するかは良くわからないため、さらに2期調査を実施した。その際には、後方部が高いので、

もうひとつ古墳があるのではないかと疑い、墳丘部を縦にトレンチを入れて掘った。その結果、副葬した埋葬物はなかった。土の中に含まれていた土器と、埋葬されていたところに入っていた土器の年代の差がはっきりした。最終的に出した教育委員会の結論としては、古墳自体は3世紀の前半で作られ、埋められたのは3世紀の中頃であるということで、土器の年代がずれていたということがわかった。今後、仮に一番初めの道路を通すという案で行った場合には、古墳を撤去することになるが、撤去と言うことは、完全に発掘調査をやってしまうということになる。撤去するためには、1枚1枚層をめくるように剥がしていき、最後に無くなって、さらに、古墳のある場所の下に、弥生時代の住居が埋まっていることが、前回の調査で分かっているため、高尾山古墳は、もともと弥生時代の住居があった場所を均してできた古墳であるが、その下の弥生時代の調査までやらなければならない。道路を通すための緊急発掘になる。そこにある遺物を全て取り上げてしまうという発掘になる可能性があった。それをやめて、今ある墳丘形状が残っている状態で残していくことが、今の両立ということになる。今ある古墳の形を残し道路を曲げるのが、両立させる案である。将来的には、もし国指定になった場合は、当初あった古墳の形状になるべく近い形で保存となる。西側の道路として削られている部分は今のところ考えていないが、本来は1メートル以上高いと想定しており、表土が1メートルくらい削られているので、今残っている形を当初あった高さの、本来土が覆っていたと思われる部分を足し、後方部分もかなり削られているので、そこを戻し、芝等で植生し保護し、周溝もカラー舗装等をし保護し残す形となる。

三好委員
教育次長

国指定となったら、そのように保存するのか。

国指定でも、県指定であっても、何らかの文化財として保存するとなり両立できた場合は、そのように保存する。国指定となれば、国から補助金等が出るが、古墳の形状をそのまま残す。史跡は、現在あるものをなるべく残すということが前提でないと、史跡指定とはならないため、そのような形で保存するということが考えられる。今のところは、これ以上の発掘調査の予定はない。やるとすると、古墳の周辺を発掘する必要があるかどうかということになると思う。測量のやり直しなどはあると思うが、今の形をわかりやすい形で保存するという作業があると思う。

三好委員
文化振興課長

大変であると思う。

古墳というものは、基本的には現地保存するものである。それが叶わない場合については、発掘調査をして報告書として残すが、高尾山古墳の場合はその両立ということであるので、現地保存を模索しているところである。来年度以降道路がどのようなになるかは不明であるが、現地保存で考えていきたい。

三好委員
教育次長

教育委員会の立場として、道路との絡みがあるので、大変であると思うが、どうぞよろしくお願ひしたい。

全国に、古墳は多数あるが、仁徳天皇陵古墳のように、宮内庁が認定した古墳は、発掘ができない。宮内庁管轄の古墳は、手を付けることが出来ないため発掘していない。その古墳の被葬者は伝えられてきたが、発掘できていないため、言い伝え等でやっている。そうでない古墳が、調査できる。

- 土屋委員 地元の方は、道路のことを気にかけていらっしやると思うが、道路については公安委員会とは、どのくらいで決定できる見通しがあるのか。
- 教育次長 建設部で聞いた話では、道路形状をT字路にする案の場合は、信号機の設置箇所についての調整の場には上がっていると聞いている。次のステップは現地の測量に入っているが、9月末の地元の説明会に私どもも同席したが、測量をしないとどのような線が引かれるのか、設計ができず、いくつかの案を作成し、地元の皆様の要望等を見て、決着点を見つけて行く作業が今後出てくる。その上、公安委員会との協議を並行して実施していくと、答弁していた。いつということは不明であるが、とにかく早く実施したいという考えである。教育委員会としては、古墳も重要であるが、通学路の問題もあるため、私どもも協力して、早く決着点が見えるよう、努力していきたいと思っている。
- 服部教育長 幅が広い問題である。
- 服部教育長 尾藤議員の、公金の入札について、修学旅行について、私が答えさせていただいたが、その後の様子の報告をお願いしたい。
- 学校教育課長 修学旅行の業者選定については、資料の2ページに書いてあるとおりに教育長が答弁した。修学旅行で、一番ポイントになるのは、宿の選定である。現状は、小学校は概ね春、夏に分かれて実施している。修学旅行が終了すると、学校により常宿が決まっており、来年もお願いしたいとなる。その宿を利用して、複数の業者に交通機関等を含めた見積もりを出してもらっている。中学校については中学3年の5月に殆どが実施する。6月にずれ込む学校も一部あるが、中学1年生時で既に、修学旅行列車というものがあり、これで半額近くに割り引かれるため、まずは、列車の予約をする。これは第3希望程度まで出し、思いどおりになれば良いが、概ね火・水・木で2泊3日で実施することが、一番空いていて良いが、土日にかかると5月の京都は観光客が多く混雑する。希望が外れると土日にかかり、最近では外国人観光客が増加し、京都のホテルは非常にとりにくい状況になっている。その中で、他校と一緒にになるとトラブル等が起きやすいため、その中で多くのリクエストをし、仕様書を作成し、業者選定を実施している。この仕様書が難しく、複数に見積もりを出しても1者しかもらえない場合などがあり、その中でできる限り、公正公平で、複数から見積もりをもらえるようにするために、市で各中学校から仕様書を出してもらい、複数の業者を市役所に集め、順に仕様書を提示し、出来るだけ見積もりを出していただけるようにやることが、公正公平で学校にも複数の見積もりをもらえるメリットがあると考えており、先日校長会で提案をさせていただいた。
- 服部教育長 修学旅行は、大きな行事であり、多額の費用をかけて行くものであるため、保護者に対し公金の説明責任を果たすこと、業者を選定した経過などを、PTA総会や学年での説明会などで、しっかり説明していきたいと思う。
- 学校教育課長 山下議員からのいじめに関する件について、文教産業委員会でも説明させていただいたので、いじめについて報告をお願いしたい。
- 学校教育課長 文教産業委員会では、城内議員から質問が出た。質問内容は、東京電力福島第一原発事故で、福島県から自主避難した生徒が、転校先でいじめを受けていたという事件が横浜等であり、今でも報道が続いている。沼津市の小中学校に

は震災による避難転入者が何人いるかという内容で、議会の時点では3名であった。中学生1名、小学生2名であると回答した。避難者がいじめられている実態があるかという質問があった。これについては、学校と頻繁に連絡をとりながら確認しているが、いじめはなく、元気に生活をしていると中学校、小学校から報告を受けていると回答した。

服部教育長

いじめ問題や不登校等の様々な問題については、学期に1回皆様に報告をさせていただくこととしているが、2学期までの状況を1月の定例会で報告をさせていただきたいと考えている。今回の横浜市で起きた福島原発事故をめぐってのいじめ問題は、学校でも何ともできず、教育委員会も機能しなかったということは、本当に教育に携わる者として、残念でならない。教育委員会の役割として、危機管理体制やチェック機能も大きな役割になっているので、さらに確認していきたいと考えている。

沼津市のいじめ対応についての確認だが、いじめ防止対策推進法の施行に伴い、平成25年からは対象となっている子どもたち、いじめ等訴えのあった苦痛を感じている全てがいじめと認知していくということで、沼津市内の全小中学校ではそのように対応をしている。認知件数は上がっており、全国的にも上がっていることは、積極的に問題として受け止めている表れと、前向きに捉えている。

市内小中学校では、学校いじめ防止基本方針を策定し、年度当初に保護者に必ず示し、ホームページでも公開し、それに基づいて実施しているが、その形や組織が重要ではなく、それが機能していくことが大切であるので、市内校長会でも機能していくよう改めて依頼した。学校評議委員会や保護者への公開ということが年度末にあるが、たとえ学校の中にそのような問題が無い場合にも、必ず項目を設け、学校での状況を報告することを依頼した。学校では、大小様々な問題が起こる。学校は小さな社会と考え、子どもたちの取り組み方に大人も一緒に関わりながら、問題を乗り越えて行くその対処の仕方を含めて大きな学習であると思っている。子どもの成長を大切に、前向きに指導していきたいと考えている。教育委員の皆様にも、出来るだけ学校の様子、問題も含めて報告していきたいと考えている。沼津市いじめ問題調査委員会が昨年設置され、期間は2年間である。その委員会は、重大な問題が起きたときには開催し、外部や教育委員会が関わりながら調査していくというシステムである。教育委員の皆様には、そのような問題がないか、情報があったら察知していただき、必要だという時には、緊急の教育委員会を開催することができるので、是非、ご了解いただきたいと思っている。以上、議会の報告について、再確認させていただいた。

服部教育長

それではご意見も尽きたようなので、本件については、報告を受けたということでご了承願う。

各委員

異議なし。

服部教育長

異議なしと認める。

<その他>

服部教育長

その他に何かあるか。

図書館事務長

10月22日に実施した、「ビブリオバトル小中学生大会 IN 沼津」について報告する。これは、紹介者が、バトラーとして自分が好きな本を紹介し、それを聞いた観客がどの本が一番読みたくなったかを選び、チャンプ本を決める大会である。バトラーとして参加したのは、小学生14名、中学生18名、それぞれ午前午後と別れて実施した。今回初めて、高校生ボランティア14名の生徒に集まってもらい、当日の会場の準備、受付、司会進行をやってもらった。観戦者は全部で約80名となる。結果は、小学生は静浦小中一貫学校と沢田小学校の児童、中学生は第五中学校と第三中学校の生徒で、それぞれ3冊ずつチャンプ本が出た。今回小学生が初めて参加したが、どんな本を読むのか考えていたが、中高生が読むようなヤングアダルトを読んでいたり、一般書を読んでおり、それを紹介本として紹介するなど、非常に幅広い分野で読書をしていると感じた。中学生は、東野圭吾や池井戸潤などを読んでおりびっくりした。今回は高校生ボランティアに司会を依頼したが、とても上手であった。本の紹介者に質問をし、質問をされた紹介者がそれに答えるという問答があった。例えば、「かあちゃん取扱説明書」を紹介した小学校6年生の児童がおり、この本は、かあちゃん取扱をマスターすればお小遣いもおやつも思うがままという本であるが、司会者の高校生が、「あなたのかあちゃん取扱説明書はあるのか」と質問したところ、その児童は、「もちろんある、でもそれは企業秘密である。自分のかあちゃんがそこにいるから。」と言うように、紹介者の素の部分を見えたビブリオバトルであり、非常に会場が盛り上がった。本の内容でチャンプ本になるのはもちろんであるが、高校生の引き出し方も、チャンプ本になる1点であったと感じる。参加者アンケートをとったところ、高校生の司会がとても良かったとあった。課題であるが、今回小学生が初めて参加したが、参加校が3校のみで、中学は6校であったが、初めての試みとしては少なかつたと思う。事前に学校司書の会や、校長会で説明し参加を呼びかけ感触があったように感じたが、ふたを開けたら少なかつた。今後、学校司書の方々に何が問題であったか聞き、来年に備えて行きたい。図書館は12月にフェイスブックを立ち上げたので、こちらでもPRをしていきたいと思う。

もう一点は、11月13日(日)に毎年図書館で読書週間の講演会を開催している。今年は、「村岡花子の生涯」ということで、NHKの朝ドラで放送された赤毛のアンの翻訳者、村岡花子さんのお孫さんの村岡恵理さんを迎え「曲がり角のその先に ～翻訳家 村岡花子の生涯～」と題して、翻訳の仕事や女性の生き方等について講演をいただいた。図書館で読書週間に開催した講演会の中で、過去10年間で、一番来客者が多かつたので、報告させていただく。視聴覚ホールは200名が定員であるが、2日で予約がいっぱいになってしまった。当日休まれる方が多いが、それでも188名の来客があつた。朝ドラの影響や、赤毛のアンを読んだことがある女性の方も多く、ポスターも掲示させていただき、それらの影響もあつたと思う。

以上2点報告、させていただく。

服部教育長
三好委員

説明が終わつたが、本件に対するご質問、ご意見等はいかがか。
ビブリオバトルはいいと思う。

服部教育長 私も、参加させていただいたが、いきいきと子どもたちが話をしていた。読書推進もあるが、プレゼン力ということもある。3分間、原稿を読むのではなく話をするので、とても良い企画であると思う。

三好委員 高校生ボランティアは、どのように募集をしたのか。

図書館事務長 高校生は、各学校を回りお願いした。また、昨年ビブリオバトルをやっていた学校に先生に個別にも直接依頼し、参加していただいた。

三好委員 各学校に投げかけるのには、今後は学校教育課に協力をしてもらおうと思う。

服部教育長 参加した児童生徒は、学校の中で校内ビブリオバトルをやっている。その中で自信を得た児童生徒が、自主的に挑戦してみようと参加している。

三好委員 学校の中でも、ビブリオバトルをやっているのか。全ての学校でやっているのか。

服部教育長 はい。やっている学校もある。

学校教育課長 全部の学校ではないが、年々増加している。

三好委員 とても、良い事業であると思う。話すことも、読んでそれをプレゼンテーションすることも非常に良いと思う。

服部教育長 ビブリオバトルの形式が読書の紹介だけでなく、様々な学習スタイルとして有効であるので、取り入れてやって行くと良いと感じている。
様々な各課の事業が、繋がりにあっていくと良い。

服部教育長 それではご意見も尽きたようなので、本件については、報告を受けたということでご了承願う。

服部教育長 その他に何かあるか。

服部教育長 ないようなので以上をもって本日の定例会を終了する。

午後3時40分 閉会